

恵友



医療法人恵友会 霧ヶ丘つだ病院
 デイケアほっとホーム霧ヶ丘
 訪問看護・ヘルパー・ケアプランステーション

今号の恵友

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回呼吸リハビリテーション
 研修会の報告 ・ 在宅酸素友の会バスハイク
 ～10周年&20回を迎えて～ | <ul style="list-style-type: none"> ・ トピック
 2008年メディア活動
 当院を最近訪問された方々
 ベストドクターズに登録されました！ |
|--|--|



今号の表紙 『夜のバルーンフェスタ』

佐賀市嘉瀬川河川敷で行われるアジア最大の熱気球イベント「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」。暗闇の中、河川敷一面に広がったバルーンがバーナーの炎に照らされライトアップされます。昼とは違った幻想的な情景が感動的です。

(撮影 廣畑正己)

- 第3回 呼吸リハビリテーション研修会が北九州で開催されました -

理事長・院長 津田徹

北九州は、リハビリテーションの原郷、また、日本で初めて呼吸のリハビリテーションが行われた場所でもあります。

日本呼吸ケア・リハビリテーション学会の主催で東京→三重→北九州と経て、第3回目の呼吸リハの研修会が、呼吸リハ委員会委員長の長崎大学医学部保健学科 千住秀明教授の企画により、8月2～3日に開催されました。日本医科大学 木田厚瑞教授、公立陶生病院 谷口博之先生、順天堂大学 植木純先生、産業医科大学 吉井千春先生、津田徹といった講師陣に加え、長崎大学千住研究室10名による実技指導と充実したプログラムでありました。

「和気清麻呂とリハビリテーション」



猪に乗った和気清麻呂公
(妙見神社)

研修会会場は九州リハビリテーション大学校。開会に先立ち、同大学の理学療法学科長の橋元隆教授より、『ここは日本のリハビリテーションの原郷：まほろば』であるとのお話がありました。これは、和気清麻呂公の当地での伝承に由来します。奈良時代、道鏡に脚を痛められた和気清麻呂公が、宇佐八幡宮で『豊前国企救郡湯川郷の山の麓に湯がわき出ている。その湯に浸れば足はなおるであろう。』とのお告げを受け、九州リハ大の近くの湯川にて、霊泉につかり痛みを和らげ（物理療法：水治療法）、歩く練習をしました（運動療法：歩行練習）。21日目には足が立ち、清麻呂公は山の頂上に登り、宇佐八幡宮へ向かい、お礼を申しました。「足が立つ」ということからこの山は足立山と呼ばれ、これが日本で初めてのリハビリテーションではないかと考えられています。

呂公は山の頂上に登り、宇佐八幡宮へ向かい、お礼を申しました。「足が立つ」ということからこの山は足立山と呼ばれ、これが日本で初めてのリハビリテーションではないかと考えられています。

「昭和27年九州労災病院で現在のリハビリテーションが始まった」

時は過ぎ、昭和27年頃、九州労災病院では、神経内科の服部一郎先生（現、長尾病院：福岡市）により、脳卒中や神経疾患の患者さんにリハビリテーションが開始されていました。自宅も隣同志であった津田稔（患友会 元理事長）は、お互いにリハビリテーションに青春をかけ、専門の呼吸器のリハを日本で初めて開始したのでした。さらに、この九州リハ大で学び、現在、呼吸リハビリテーションで活躍されているのが、長崎大学医学部保健学科 千住秀明教授であります。



昭和27年頃の九州労災病院



歩行訓練



口すぼめ呼吸

津田稔 原武郎 高山宏世 杜武傑 下畑博正 米倉豊子著
日本胸部臨床 1965年より

以上のような御紹介が橋元教授よりあり、今回の呼吸リハビリテーション研修会が開催されたことは、歴史の重みだけでなく、この地に呼吸リハビリテーションのモデルをさらに新しく作って行かなければならない必然性を感じました。

- 第18回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会が愛媛で開催されました -

当院より、ワークショップ～津田徹2つ、一般演題～中山、末松、江里口、福永、與座（加賀美との共同研究）の7つの発表でした。

1. ワークショップ「在宅呼吸管理をいかに行うか」座長と総論 津田 院長
2. ワークショップ「福岡COPD研究会の取り組み」 津田 院長
3. 「医療ソーシャルワーカー（MSW）の呼吸リハビリプログラムにおける禁煙支援」
末松 ソーシャルワーカー
4. 「FIMでの評価では呼吸器障害者の重症度は反映されない～ADL評価の比較より～」
江里口 理学療法士
5. 「呼吸器病棟における減らない転倒・転落への取り組み」 中山 看護部長
6. 「NPPV看護 マスクによる鼻骨部皮膚損傷に対する工夫」 福永 看護師
7. 「HOT患者における要介護度とADLの関係、
および他疾患患者とのQOLおよび不安・抑うつと比較」 加賀美 ケアマネージャー
(共同演者)



今年は7つの発表となりました。



中山 看護部長の発表の様様

日々の診療・看護・介護において、患者さんへのいろいろな支援をするために、多数のスタッフが万全を期して準備を行う、この準備は非常に大変なものです。患者さんや家族を孤独にせず、スタッフみんなですべてを支えていることを分かってもらい、安心してもらう。このような取り組み、患者さんの家庭復帰・社会復帰・患者さんを旅行に連れていく、といったことを通して、患者さんが喜び、やって良かったと思えば、私たちも次のエネルギーがわいてきます。学会は、そのような活動を発表しあうことで、医療の質や医療従事者の士気を高めあう場所でもあります。

来年は東京で木田厚瑞先生が会長、患者さんへの教育がメインテーマです。津田院長は来年もプログラム委員でがんばります。



福永看護師は、鼻マスクを使用した人工呼吸器で鼻部に褥瘡ができることが多く、これを当院で発案したMPジェルで防御できることを発表しました。この発表は全ての現場で困っていることがテーマでしたので、すごい反響があり、終了後もMPジェルを巡って、会場前で人だかりが1時間以上もできている状況でした（左写真）。

バスは行く! ~10周年&20回を迎えて~

平成10年11月9日に第1回を開催してから、今年でまる10年を迎えることができました。参加いただいた皆さん、毎回協力いただいている在宅酸素プロバイダー（株式会社大同商会）さん含め、多くの方々に支えられながらここまでやってこれました。深く感謝するとともに、今後もHOTのみなさんが心から楽しめる企画をしてみたいと思います。

さて、今回で一区切りにもなる10周年を迎えるにあたり、バスハイクがどういった内容で行われているのかをあらためてご紹介し、あわせてこの10年を少し振り返ってみましょう。

バスハイクの企画概要

【参加対象】

在宅酸素療法患者を中心に呼吸器疾患を持つ方、およびご家族(25～35名)

【参加費用】

一人10,000円(日帰り)

【動向スタッフ】

医師1名、看護師3名、理学療法士1名、
コメディカル1名、在宅酸素プロバイダー(大同商会)4名

【場所の選択】

片道150km、所要時間2時間以内、休憩場所はバリアフリー、
昼食は畳の部屋、温泉もしくは大浴場完備、障害者用トイレ設備、
散策・見学は坂道が少ないこと、車椅子が利用できることなど

【下見】

バスハイクの予定日のおよそ1月前に、当日の行程を計画しながら下見
トイレ休憩の場所、所要時間・付近の医療機関、見学場所の入場料料金、バス駐車場からの移動距離、
雨天時の計画、昼食場所の確認、食事内容とお土産売り場の確認など

【準備】

バスの予約、バスハイクのポスター作成と掲示、行程表と申込書、日帰り保健加入、
バスハイク必要物品、車中のレクリエーション計画、景品とおやつ、車椅子借用、参加者名簿作成など

【当日】

8:30 集合 病院に集合(午前休診の水曜日の外来待合室を利用)

9:00 出発 挨拶(スタッフ紹介)、理学療法士による体操、
レクリエーション(ビンゴゲーム、自己紹介、歌など)

10:00 トイレ休憩

11:00 見学

12:00 昼食、入浴、お土産買い

14:30 出発

15:30 トイレ休憩

17:00 到着、在宅酸素プロバイダーが病院から参加者宅まで送迎



出発前のバイタクチェックと談笑風景



当院スタッフに見送られて出発!



バスハイク必要物品の一部
点滴セットや人工呼吸バックも持参

『バスは行く』10周年を迎えて

看護部長 中山初美

私が、看護学生として学びながら当院で働き始めたのは昭和49年でした。当時から呼吸器疾患の患者さんが多く、病室にはすべて酸素設備があって肺機能なども検査していました。また、腹式呼吸を中心とした呼吸リハビリテーションもすでに行われており、患者さんは腹部にサンドバックを乗せて複式呼吸の練習に励んでいました。在宅酸素療法（以下HOT）に関しては、退院時に必要な方が自費で購入されたりしていましたが、1985年にHOTが健康保険の適応となってからは急速にHOTが増加していきました。



看護部長 中山初美（右）
（ひまわり現会長の政次さんと）

しかし、HOTが普及していく一方で、在宅では呼吸困難から身体的、精神的活動意欲が低下し、抑うつ状態から閉じこもりがちになったり、酸素吸入していることを受け入れられず、周囲の目が気になって散歩もできないなど、社会活動に参加できないケースが多く見られました。そこで、そのようなHOT患者さんを孤立させないため、津田院長の助言のもとバスハイク『バスは行く』を計画しました。第一回の参加者のアンケートから、当会の名称を『ひまわり』と命名し、会長を選出しました。

「外に出てみりゃ愉快的なことが待っている。旅に出るうれしさは、大人になっても変わらず心を満喫させてくれる。旅は元気をくれる。単調な生活では味わえない、程よい刺激と深い感動をくれる。楽しさに心ときめき、生命は躍動する。旅はそんな不思議なものをくれる。」

これは、その当時の会長のバスハイクに関する旅行記での言葉です。
その他にも次のようなことばを参加者のみなさんからいただいています。



酸素を持って、さあ出発！

- ・ドクターや医療スタッフがいるので安心できる。
- ・風景や食事、バスの中でのレクリエーションが楽しみである。
- ・毎回新しいところへ行けるのがうれしい。
- ・一人じゃないので不安が少ない。
- ・たくさんの人と交流が持てるので今後も参加したい。

2000年からは介護保険制度が開始され、デイケアで呼吸リハビリテーションの継続が可能となりました。HOT患者さんの社会的孤立の改善につながり、お互いがサポートし合う中で、デイケアからの参加も増え、気付けば10年が経過していました。

『バスは行く』は医療チーム、特にHOTのプロバイダーさんの協力なくしては実現できませんでした。第一回目から、下見も含め参加者の送迎、車中での携帯酸素ポンベの交換などのバックアップのおかげで、HOT患者さんが安心して参加でき、また次回も参加したいとの目標を持って、事後のセルフマネジメントができたのだと思います。

今後も、年2回の『バスは行く』が、HOT患者さんが安心して参加でき、同じ仲間と語り、裸の付き合いができる、また、家族も同伴して一緒に楽しく過ごす機会として、継続して企画していきたいと思っています。多数のご参加をお待ちしています。



第8回 有田ポーセリンパーク



第11回 下関海響館



第15回 国立九州博物館



第20回 山口市菜香亭

在宅酸素の大同商会です！



毎回サポートで大活躍の
㈱大同商会のみなさん

バスハイク10周年おめでとうございます。

弊社一同も第1回よりお供させて頂いておりますが、やはり最初の湯布院旅行が思い出されます。全てが手探りでしたので、とにかくみなさんが酸素のご心配をなさらずに楽しんで頂ける様、何度もミーティングを重ね、酸素も十分過ぎる程準備しました。当日は良く晴れた気持ちの良い日で、印象に残ったのは、呼吸器の患者さんが、大変緩やかな上り坂でも息が上がってしまい、手をお貸した事です。我々もバスハイクを通して、日々の業務の心構えを勉強させて頂いております。

20回を事故なく無事に迎えられましたが、中山看護部長が毎回、1日ばかりでバリアフリー、サービス等に重点を置かれた下見をしっかりとなさされている事に依るものと思います。

この先もバスハイクが末永く続いて行く事を、社員一同心よりお祈り申し上げます。

第20回バスハイクを終えて

記念すべき第20回は、山口市菜香亭と湯田温泉に行ってまいりました。今回は参加したスタッフの感想を聞いてみました。

バリアフリーの院内とは違い、酸素を持ったり杖をついたり移動は、少しの段差や坂道でも努力を要するため、息切れや疲労を強く感じやすく、HOTのみなさんが日常生活上での外出を避けなくなる気持ちがあらためて分かりました。

しかし、この疲労感や苦痛も、季節を肌で感じたり、美味しい食事を食べたり、温泉につかったりと非日常を味わうことで、気持ちが軽快するのではないかと思います。

バスハイクをきっかけに多くの方が外出する喜びを思い出し、少しずつでも自信を持って出かけられるようになればと思います。今後は「みんなでバスハイクに参加しよう！」を目標としていろいろなリハビリメニューを考えていきますので、みなさん一緒に頑張りましょう！！

(理学療法士 長田朋子)

日々の看護のなかで、患者さんやご家族から「酸素持参での外出の不安」について相談されます。しかし、バスハイクでは、自己紹介や歌の大合唱で盛り上がり、見学先の菜香亭では歴史の重みを感じ、旅館では昼御膳の美味しかったこと。ワハハ！ワハハ！大笑いでお腹一杯。バスハイクが患者さんにとって不安の少ない外出の一つであることを実感しました。

私自身も今回参加された患者さんから色々な面で大きなエネルギーをいただいたように思います。「楽しかったなあ」その一言に尽きます。

(病棟看護師 湊田陽子)

記念すべき第20回バスハイク。スタッフとして参加して、バスハイクを本当に楽しみにして下さる方が大勢いらっしゃるということがよく分かりました。今回はそのお手伝いが少しでもでき、患者さんの笑顔や言葉から、より一層バスハイクの意味の深さを実感しました。

これからも、このバスハイクが30回、40回と続き、できる限り私自身もかかわっていかれたらと思います。

(病棟看護師 坂元裕子)



バス内で盛り上がりい



天気に恵まれてえ



食事美味しう



楽しいウィッシュ！



2008年テレビ・ラジオなどでの紹介

- 1月 すこやかライフ No.31
(独立行政法人環境再生保全機構発行誌)
「たばこ・禁煙への取り組み
～呼吸器専門病院で行われている禁煙治療～」
- 7月 毎日新聞患者塾「肺年齢って何ですか？」
- 8月 NHK 教育テレビ 日曜フォーラム
「あなたの肺は健康ですか～忍び寄るCOPDの恐怖～」
- 9月 ソネットエムスリー (インターネット放送)
「日本全国 喘息治療の現場から#4」
- 10月 KBC ラジオアレルギー談話室「タバコと喘息」
- 10月 RKB 今日感テレビ「肺年齢と禁煙について」



RKB 毎日放送 10月29日放送
『今日感テレビ』より



当院を最近訪問された方々

以下にご紹介する以外にも、日本医科大学の木田厚瑞教授や川並汪一教授、公立陶生病院の近藤康博先生ほか、多くの方にご来院いただきました。



日本尊厳死協会会長の太田満夫先生
職員・患者さんを対象にリビング
ウィルについて講演していただき
ました。

公立胸生病院 谷口博之先生
順天堂大学 植木純先生
呼吸リハビリ研修会の際に
当院を訪問されました。



ベストドクターズに登録されました！



「ベストドクターズ、Best Doctors および
star-in-cross ロゴは、米国およびその他の
国における Best Doctors, Inc. の商標で、
ライセンス許可のもと使用されています」

当院長の津田徹がベストドクターズ医として登録されました。

ベストドクターズ社の選出基準は、現段階で Best Doctors に
なられている先生方に同じ専門・関連分野でご活躍されている他の先生方
について「先生ご自身またはご家族の治療を自分以外の誰に委ねるか」と
いう観点から推薦・評価をお願いし、この集計などから Best Doct
r s を決定するというものです。

なお、ベストドクターズ社の詳細につきましてはインターネットアドレス
<http://www.bestdoctors.jp/> にて掲載されてます。

外来担当のご案内

【外来担当表】

2008. 12. 1

下記の担当医は、都合により変更になる場合がございます。その場合は他の医師が診察いたしますのでご了承ください。
水曜の夜は19:30まで一般内科外来を受け付けています。勤め帰りの方もご利用ください。

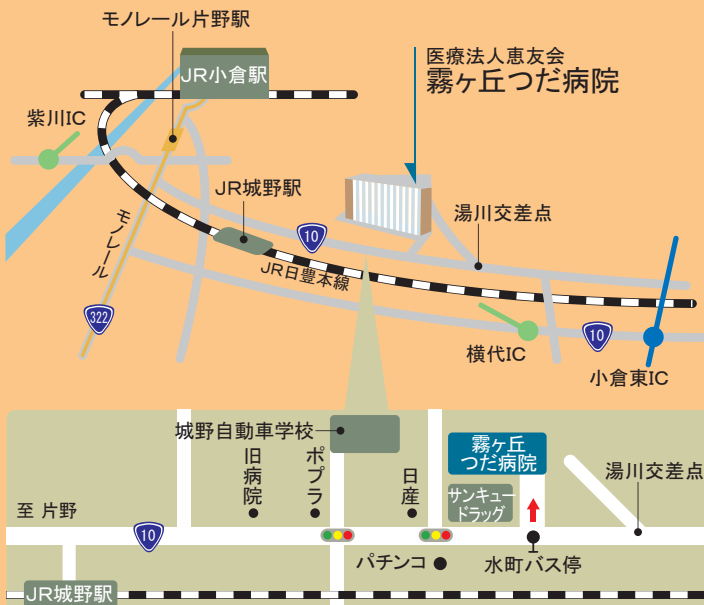
	午前 (9:00~12:00) 受付は11:30まで	午後 (14:00~17:00) 受付は16:30まで	(17:30~20:00) 受付は19:30まで
月	津田 徹 森脇 篤史 [九大呼吸器科] 良永 倫子 (10:30~)	一木 克之	
火	津田 徹 一木 克之 良永 倫子 (10:30~)	自見 勇郎	
水	午前外来休診	喘息・呼吸器外来 井上 博雅 [九大呼吸器准教授] 一木 克之	一般内科・呼吸器外来 津田 徹 (一木 克之) 一般内科・糖尿外来 市野 功 [九州労災病院]
木	津田 徹 良永 倫子 自見 勇郎 (10:30~)	喘息・呼吸器外来 相澤 久道 [九大1内科教授] 自見 勇郎	
金	津田 徹 一木 克之 赤田 憲太郎 (10:30~)	坂崎 優樹 [九大1内科]	
土	自見 勇郎 / 一木 克之 [隔週] 赤田 憲太郎 / 國本 政端沖 / 坂崎 優樹 [交替] 睡眠呼吸障害優先外来 津田 徹 [第1, 3, 4土曜] 北村 拓朗 [第2土曜]		

※月に一度、最初の診察日には**保険証**を忘れずご持参ください。

※日曜、祝日、土曜午後、水曜午前は休診です。(その他の休診日については、その都度掲示致します)

※睡眠呼吸障害外来の初診は月~土の全診療時間で行っております。

※当院にお掛かりの方で喘息の発作その他緊急時には、夜間でも電話(952-1304)をかけてご来院ください。



医療法人恵友会
霧ヶ丘つだ病院

デイケアほっとホーム霧ヶ丘
訪問看護・ヘルパー・ケアプランステーション

発行日 : 2008年11月20日

編集発行人: 松田和人

発行所 : 医療法人恵友会

〒802-0052

北九州市小倉北区霧ヶ丘3-9-20

Tel. 093-921-0438 Fax. 093-921-5988

ホームページ: www.k-you.or.jp

メール: info@k-you.or.jp